

による「ソーシャルワールドの作成」のレビュー(Making a Social World) by John Searle (2010) (2019年改訂)

Michael Starks

抽象

mソーシャルワールド(MSW)の作るについて詳しくコメントする前に、私はまず、サール(S)とウィトゲンシュタイン(W)の作品に例示されている哲学(記述心理学)と現代心理学研究との関係についてコメントします。これは、記述心理学のこれらの2つの天才によってPNC、TLP、PI、OC、TARWおよび他の本の私のレビューを見るのに大いに役立ちます。

Sは、TLPのメカニズムとしてのWの優れた心の声明と、彼の後の作品でそれを破壊することに言及していません。W以来、Sはこれらの機械的な行動観の主要なデコンスであり、最も重要な記述心理学者(哲学者)であるが、Wが彼をいかに完全に予想していたか、そして大きく他の人たちも(しかし、W、チューリング、AIのプラウドフットとコーブランドの多くの論文や本を見る)を知らない。Sの仕事はWの仕事よりもはるかに簡単で、専門用語はありますが、正しい方向からアプローチすればほとんど見事に明らかです。詳細については、WSやその他の書籍の私のレビューを参照してください。

全体として、MSWはSの半世紀の仕事に起因するウィトゲンシュタインに対する多くの実質的な進歩の良い要約ですが、私の見解では、Wは彼が言っていることを理解すると、基本的な心理学のためにまだ不平等です(私のレビューを参照)。理想的には、彼らは一緒に読む必要があります:S2 / S3の動作に関する明確な一貫した散文と一般化のためのサールは、S1 / S2の動作のWの厄介な例と彼の華麗な格言で示されています。もし私がずっと若かったら、まさにそれをやっている本を書くだろう。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、運命の惑星における「話す猿--哲学、心理学、科学、宗教、政治—記事とレビュー2006-2019 第3回(2019)」と21世紀4日(2019年)の自殺ユートピア妄想st Century 4th ed (2019)などを見ることができます。

「しかし、私はその正しさを満たすことによって世界の私の写真を得ませんでした:また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。いいえ:それは私が真と偽を区別する継承された背景です。ウィトゲンシュタイン OC 94

「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。ウィトゲンシュタイン「青い書」 p6 (1933年)

「ナンセンス、ナンセンス、あなたは単に記述するのではなく、仮定をしているからです。ここでの説明に頭が悩まされているのなら、最も重要な事実を思い出すことを怠っているのです。ウィトゲンシュタイン Z 220

「哲学は単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測もしていません。すべての新しい発見や発明の前に可能な事に「哲学」という名前を付けるかもしれません。ウィトゲンシュタイン PI 126

「私たちが提供しているのは、好奇心ではなく、人間の自然史に関する本当の発言です。しかし、誰も疑っていない事実に対する観察ではなく、常に目の前にあるため、無言の事実には過ぎないのです。ウィトゲンシュタイン RFM I p142

「哲学の目的は、言語が止まるところに壁を建てることです。ウィトゲンシュタイン哲学的機会 p187

「ここでの最大の危険は、自分自身を観察したいです。LWPP1, 459

「言語の限界は、文を単に繰り返さずに文に対応する事実(翻訳)を記述することは不可能であることによって示されています(これは哲学の問題に対する関天的な解決策と関係があります)。ウィトゲンシュタイン CV p10 (1931年)

しかし、型作者や脳などの物理システムは、その計算シミュレーションと共有するパターンを特定することによって説明することはできません。...要するに、構文の帰属はそれ以上の因果関係を特定しないという事実は、プログラムが認知の因果関係の説明を提供するという主張に致命的である。物理的なメカニズム、脳、その記述の様々な実際の物理的および物理的/精神的な因果関係があります。新世紀のサル哲学(PNC)p101-103

「理由文で報告された事実の性質と、エージェントの欲望、価値観、態度、評価とは無関係に合理的なエージェントに拘束力のある行動の理由はありますか?...伝統的な議論の本当のパラドックスは、ヒュームのギロチン、厳格な事実価値の区別を語彙で提起しようとするということです。サル PNC p165-171

"...すべてのステータス機能、したがって、言語を除くすべての制度的現実、宣言の論理的な形式を持つスピーチ行為によって作成されます。問題のステータス機能の形態は、ほとんど常に脱イオン力の問題です。何かを権利、義務、要件として認識することは、行動の理由を認識することです。これらの脱イオン構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由を作ります。一般的なポイントは非常に明確です:行動のための欲望ベースの理由の一般的な分野の作成は、行動のための欲望に依存しない理由のシステムの受け入れを想定しました。

サル PNC p34-49

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作るとは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サル PNC p115-117

「意識は脳のプロセスに対して因果関係を低下させる。そして意識は、基礎となる神経生物学の因果関係に加えて、それ自身の因果関係を持っていません。しかし、因果関係の還元性は存在論的還元性につながりません。意識は経験としてのみ存在する。したがって、第三者のオントロジーを持つもの、経験とは独立して存在するものに減らすことはできません。サル PNC 155-6

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足条件と関係があります。そして、命題は世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足条件を決定し、提案は満足条件を決定するのに十分なものとして定義されているので、すべての意図的性は命題の問題であることが判明しました。サル PNC p193

「だから、ステータス機能は社会と一緒に保持する接着剤です。彼らは集団的な意図的性によって作成され、彼らはデオンティックな力を運ぶことによって機能します。言語自体の重要な例外を除いて、制度的現実のすべてと、ある意味では人間の文明のすべてが、宣言の論理的な形を持つスピーチ行為によって作成されます。人間の制度的現実のすべては、宣言の明示的な形でスピーチ行為ではない場合を含む(同じ論理的な形を持つ表現)ステータス関数宣言によって存在して作成され、維持されます。サル MSW p11-13

「信念は、声明と同様に、下向きまたは心(または言葉)から世界への方向を持っています。そして、欲望や意図は、命令や約束のように、上向きまたは世界に向かう(または言葉)の方向を持っています。信念や認識は、声明のように、物事が世界でどのようにあるかを表すことになっているし、その意味で、彼らは世界に合うことになっている。彼らはフィットする心から世界への方向を持っています。欲望、事前の意図、行動の意図などの共生的な意志の状態は、命令や約束のように、世界と心の向きを持っています。

彼らは物事がどのように表されるべきではなく、私たちがどのようにになりたいか、どのようになるつもりなのかを表すべきです。これら2つの学部に加えて、提案的な内容が認知と意志の命題的な内容が合うはずの方法で現実に関わらないはずの第三の想像力があります。世界に関するコミットメントは放棄され、我々はそれが適合のどちらの方向にも表すコミットメントなしに提案的な内容を持っています。サル MSW p15

「意図的な状態と同様に、状態の種類を区別することができます。状態の内容。言語の理論では、それが行うスピーチ行為の種類を区別することができます。そして提案的な内容。我々は、意図的な状態の場合には異なる心理的モードを持つ同じ提案的な内容を有し、スピーチ行為の場合には異なる活動力またはタイプを有する。さらに、私の信念が真実または偽りであり、したがって、心から世界への方向を持つことができるのと同じように、私の声明は真実または偽りであり、したがって、単語から世界への方向を持つことができます。そして、私の欲望や意図が真実でも偽りでもできないのと同様に、私の命令や約束は真実でも偽りでもありませんが、さまざまな方法で満足または満足することはできません。信念はその真理条件を表し、欲望はその満た条件を表し、意図はその実行条件を表しま

す。意図的な状態は、満足の条件を表します。人々は誤って、すべての精神的表現は意識的に考えなければならないと考えています。しかし、私が使用している表現の概念は機能的であり、トポロジ的な概念ではありません。満足の条件を持つものは、意図的な性の特徴である方法で成功または失敗する可能性があり、定義上、その満足の条件の表現です。社会現象の意図の構造を、満足の条件を分析することで分析することができます」 サールMSW p28-32

「最初の4種類のスピーチ行為は、意図的な状態に正確な類似体を持っています:アサーティブに対応することは信念であり、指令に対応することは欲望であり、コミッシブに対応することは意図であり、表現力に対応することは、Presupフィットが当然と考えられている感情やその他の意図的な状態の全範囲です。しかし、宣言には言語学的な類似体はありません。言語学的前の意図的な国家は、すでに存在するものとしてそれらの事実を表現することによって、世界に事実を作成することはできません。この驚くべき偉業は言語を必要とする" MSW p69

「スピーカーの意味.満足の条件に満足の条件の押し付けです。これを行う能力は、人間の認知能力の重要な要素です。言語の使用に不可欠な方法で、一度に2つのレベルで考える能力が必要です。あるレベルでは、話者は意図的に物理的な発話を生成しますが、別のレベルでは発話は何かを表します。そして、同じ二重性がシンボル自体に感染します。あるレベルでは、それは他のレベルと同様に物理的なオブジェクトです。別のレベルでは、それは意味を持っています:それは、状態の一種を表す" MSW p74

"...言語を使用すると、コミットメントを作成せずに言語の規則に従って明示的なスピーチ行為を行う方法がないため、デオントロジーを持つことは避けられません。これは、ステートメントだけでなく、すべての人に当てはまります
スピーチ行為"MSW p82

これらの引用はランダムに選ばれていないが、(これら2人の天才による本の私のレビューの他の人と一緒に)私たちの2つの最大の記述心理学者からの行動のプレシスです。

社会世界の作り(MSW)について詳しくコメントする前に、私はまず、サール(S)とウィトゲンシュタイン(W)の作品に例示されている哲学(記述心理学)と現代心理学研究との関係についてコメントします。記述心理学のこれら2つの天才によるPNC、TLP、PI、OC、TARWおよび他の本の私のレビューを見るのに大いに役立ちます、サールがWの研究を引き受けたことは、W研究の直接的な結果であると言うことではなく、人間の心理学が1つしかないからです(同じ理由で人間の心臓病は1つだけです)動作を正確に記述する人は、Wが言ったことの何らかの変種または拡張を表明する必要があります(両方が行動の正しい説明をしている場合に必要です)。私はSのほとんどがWで予見されている、ストロングAIに対する有名な中国の部屋の議論のバージョンとチャップス3-5の主題である関連する問題を含む。ちなみに、中国の部屋があなたに興味がある場合は、ビクター・ロディッチのxIntを読むべきですが、事実上未知のCR -"すべての欠陥のサール解放」を補完します。

Sは、TLPのメカニズムとしてのWの優れた心の声明と、彼の後の作品でそれを破壊することに言及していません。W以来、Sはこれらの機械的な行動観の主要なデコンスであり、最も重要な記述心理学者(哲学者)であるが、Wが彼をいかに完全に予想していたか、そして大きく他の人たちも(しかし、W、チューリング、AIのプラウドフットとコーブランドの多くの論文や本を見る)を知らない。Sの仕事はWの仕事よりもはるかに簡単で、専門用語はありますが、正しい方向からアプローチすればほとんど見事に明らかです。詳細については、W Sやその他の書籍の私のレビューを参照してください。

ウィトゲンシュタインは、私にとって簡単に人間の行動に関する最も輝かしい思想家です。彼の作品全体として、すべての行動が先天的な真のみの公理の延長であり、意識的な比率(システム2)(S2)が無意識の機械化(システム1)から出現し(S1)、論理的に文化に拡張されることを示している(システム3(S3)。このアイデアの彼の最終的な拡張された治療のための「確実性について」(OC)を参照してください- 準備のためにその私のレビュー。彼のコーパスは、動物の行動のすべての記述のための基礎として見ることができ、心がどのように機能し、実際に働かなければならないかを明らかにすることができます。「必須」は、すべての脳が共通の祖先と共通の遺伝子を共有し、彼らが働く基本的な方法が1つしかなく、これは必ずしも公理的構造を持ち、すべての高い動物が包括的なフィットネスに基づいて同じ進化した心理学を共有し、人間ではこれが他の変化を操作する(認知または表現型の錯覚)に拡張されるといふ事実によって伴われる些細な)。

間違いなく、WとSの仕事のすべては、これらのアイデアの開発またはバリエーションです。ここでのもう一つの主要なテーマは、もちろん人間の行動のすべての議論において、すべての行動の根源となる遺伝的にプログラムされたオートマチズムを文化の影響から分離する必要性である。哲学者、心理学者、人類学者、社会学者などは、包括

的な方法でこれを明示的に議論する人はほとんどいませんが、彼らが扱っている主要な問題と見なすことができます。私は、高速で遅い思考(例えば、知覚やその他の自動マティスム対性質- S1とS2--を参照)だけでなく、文化へのS2の論理的な拡張(S3を参照)を離れていじめるための努力として、より高い秩序の行動のすべての研究を考慮することが最大の価値を証明することを示唆しています。

Wが彼の最後の期間(そしてあまり明確な方法で彼の以前の仕事を通して)にレイアウトしたものは、進化心理学(EP)の基礎であり、またはあなたが好むならば、心理学、認知言語学、意図的性、より高次の思考または単なる動物の行動です。悲しいことに、彼の作品は、それが書かれた日と同じくらい関連性の高い記述心理学のユニークな教科書であることにほとんど誰も気づいていないようです。彼は心理学やその他の行動科学や人文科学によってほとんど普遍的に無視されており、多かれ少なかれ彼を理解している少数の人々でさえ、EPと認知錯覚に関する最新の研究(心の理論、フレーミング、速くて遅い思考の2つの自分自身)に対する彼の期待の程度を認識していない。サールの研究全体として、最近の性質心理学の遺伝子進化のために可能な高次の社会行動の驚くべき記述を提供し、後のWは、それがS2の意識的な性質提案的思考に進化したS1の真の唯一の無意識の公理に基づいている方法を示しています。

サールのずっと前に、Wは生理学、実験心理学と計算のボトムアップアプローチ(例えば、行動主義、機能主義、強いAI、動的システム理論、心の計算理論など)が彼のトップダウン言語ゲーム(LG)の解体が何をしたかを明らかにすることができるという考えを拒絶しました。彼が指摘した主な困難は、常に私たちの目の前にあるものを理解することです(私たちは今、システム1(Sが「表現型錯覚」と呼ぶもの)に対する忘却としてこれを見ることができ(「これらの調査の最大の難しさは、曖昧さを表す方法を見つけることです」 LWPP1、347)。

彼の他の格言と同様に、私は神が私たちの心を見ることができたとしても、私たちが何を考えているのかを見ることができなかったとしても、これは私たちが何を考えているのかを見ることができなかったというWのコメントを真剣に受け止めるべきだと提案します。しかし、これらのS1機能は常に因果関係の精神状態であり、S2の性質は潜在的にCMSに過ぎないので、神は私たちが知覚し、記憶しているものと私たちの反射的思考を見ることができました。これは理論ではなく、私たちの文法と生理学に関する事実です。彼は性質を精神状態と呼んでいるので、ここでの水は泥だらけですが、Wがずっと前にしたように、彼は因果関係の言語が高次の出現S2記述には当てはまらないことを示しています。

これは、Wで顕著であるが、Sによって否定されている別のポイントを持ち出します、私たちができることは、理論ではなく、説明を与えることだけです。Sは彼が理論を提供していると主張していますが、もちろん「理論」と「説明」も言語ゲームであり、Sの理論は通常Wの記述であるようです。Wのポイントは、私たちが私たちの行動の真の説明であることを知っている厄介な例に固執することによって、我々はすべての行動(すべての言語ゲーム)を説明しようとする理論の迅速さを避け、Sは一般化したいと思い、必然的に迷子になる(彼はPNCで彼自身の間違いのいくつかの例を与える)。Sや他の人々が多くの言語ゲームを説明するために彼らの理論を無限に変更するにつれて、彼らはWのように多くの例を使用して行動を記述することに近づきます。

彼の後の第二と彼の第3ピリオドでWのお気に入りのトピックのいくつかは、高速で遅い思考(システム1と2または大まかに第一次言語ゲーム(PLG)と内側と外側の二次言語ゲーム(SLG)の異なる(しかし、デジタル化の間)LG)です。、私用言語の不可能とすべての行動の公理的構造。「思考」のような動詞は、最初にS1機能を説明しましたが、S2が進化するにつれて、彼らはそれに適用されるようになり、脳内の写真を見ているかのように想像しようとするような内部の神話全体につながりました。PLGは、私たちの不随意、システム1、速い思考、ミラーニューロン、真の唯一の、非命題、精神状態による単純な自動化された発話です - システム1の真実とUOA1を含む私たちの認識と記憶と反射的な行為('will')-機関1の理解-そして感情1-喜び、愛、怒りなど、システム2、ゆっくりとした思考、ニューロンの精神化、テスト可能な真偽、命題、Truth2とUOA2と感情2-喜び、愛情、憎しみ、処分(そしてしばしば反事実)は、理由の観点からしか記述できない、仮定し、意図し、考え、知り、信じるなど(すなわち、神経化学、原子物理学、数学の観点からシステム2を記述しようとするのは事実です)。

EP、遺伝学、生理学の面で理由を与えたくない限り、システム1の自動化を理由(例えば、リンゴとして見えています..)を記述することは不可能であり、Wが繰り返し実証したように、彼らが将来意味をなすという約束で「説明」を与えるのは無意味です。

強力なヒューリスティックは、行動と経験を意図的性1と意図的性2(例えば、思考1と思考2、感情1と感情2など)、さらには真理1(Tのみ公理)と真理2(経験的拡張または「定理」)に分離することです。Wは、「何も隠されていない」、

すなわち、私たちの心理学全体とすべての哲学的な質問に対するすべての答えは、私たちの言語(私たちの人生)にあり、難しいのは答えを見つけることではなく、私たちの目の前でいつものようにそれらを認識することです- 私たちはより深く見ようとするのをやめなければなりません。

FMRI、PET、TCMS、iRNA、計算アナログ、AI、その他すべては、私たちの行動の物理的根拠を提供し、それにもかかわらず説明できない言語ゲームの分析を容易にするために、私たちの生来の公理心理学を拡張するための魅力的で強力な方法です- EPはちょうどこのように-と変わりません。「確実性について」で最も徹底的に探求されている真の唯一の公理は、包括的なフィットネス(IF)のメカニズムによって進化し、動作する細菌とその子孫(例えば、人間)の自動化された真のみの反応に追跡可能なWの(そして後のサールの「岩盤」または「背景」すなわち進化心理学)です。

Wは、行動の分析を説明ではなく説明と見なすべきだと主張しましたが、もちろんこれらは複雑な言語ゲームであり、ある人の説明は別の説明です。世界に対する彼らの生来の真のみの、非実証的な(自動化された、変更不可能な)応答から始まり、動物は控除を通じて公理的理解をさらに真の理解(私たちが呼ぶかもしれないように「定理」)に拡張しますが、これは数学の文脈でも複雑な言語ゲームです。

ティラノサウルスとメゾンは、私たちの両手の存在や呼吸と同じくらい挑戦的になります。これは、'人間性に対する見方を劇的に変えます。心の理論(TOM)は、全く理論ではなく、新生児の動物(UOAが適切に定義されている場合はハエやワームを含む)が持ち、その後(より高い真核生物で)拡張する、真の唯一の機関理解(私が10年前に考案した用語)のグループです。しかし、ここで述べたとおり、Wは、意図的性の多くのために、システム1とシステム2のバージョン(言語ゲーム)、高速無意識のUOA1とスロー意識UOA2があり、もちろんこれらは多面的な現象のためのヒューリスティックであることを非常に明確にしました。S2の原料はS1ですが、S2はS1(心理学の基本である知覚、記憶、反射的思考の最も低いレベルへのより高い皮質フィードバック)にもフィードバックします。Wの例の多くは、この双方向の通りを探索します(例えば、アヒル/ウサギの議論とジョンストンでの「見る」を参照)。

私は、生来の真の唯一の公理Wが彼の作品を通して占められており、OC(彼の最後の作品「確実性」)でほぼ独占的に、現在の研究の中心にある速い思考またはシステム1に相当することは明らかだと思います(例えば、カーネマンを参照してください-「速く、遅く考える」が、彼はWが約75年前にフレームワークをレイアウトしたのを知りません)これは、不本意で無意識であり、知覚の精神状態(UOA1を含む)と記憶と不随意行為に対応し、Wは無限の例で何度も何度も指摘する。これらの「脳内反射神経」(脳内のエネルギー使用によって測定された場合、すべての脳内脳神経症の99%)と呼ぶかもしれません。

私たちの遅いまたは反射的な、多かれ少なかれ「意識的」(言語ゲームの別のネットワークに注意してください!)第二の自己脳活動は、能力や可能な行動を指す「性質」または「傾向」として特徴付けられるWが精神状態ではなく(または同じ意味ではない)、発生および/または持続時間の明確な時間を持っていないものに対応しています。しかし、Wが広く議論した「知っている」、「理解する」、「考える」、「信じる」などの処分の言葉には、少なくとも2つの基本的な用途があります。一つは、ムーア(その論文がOCを書くためにWにインスピレーションを与えた)によって例示された独特の哲学的使用(しかし、日常的な使用に卒業する)であり、直接的な認識と記憶に起因する真の唯一の文章、すなわち、私たちの生来の公理学的S1心理学(「私はこれらが私の手であることを知っている」)とS2の使用です。

不本意な速い思考の調査は、心理学、経済学(例えば、カーネマンのノーベル賞)および「認知錯覚」、「プライミング」、「フレーミング」、「ヒューリスティック」、「バイアス」などの名前他の分野に革命をもたらしています。もちろん、これらの言葉を使用する方法はますます有用ではなく、研究や議論は「純粋な」システム1から1と2の組み合わせ(Wが明らかにした標準)までさまざまですが、システム2の思考や意図的な行動は「認知モジュール」の複雑なネットワークの多くを含まないと起こり得るので、おそらく遅いシステム2の処分思考だけではありません「推論エンジン」、「脳内反射神経」、「オートマチズム」、「認知公理」、「背景」または「岩盤」(Wと後のサールが私たちのEPと呼ぶように)。

Wは理論化に対して頻繁に警告し、誰よりも行動する言語のより多くのより良い例を生み出しましたが、例によって示された彼の集計格言は、これまでで最も包括的な行動の「理論」(「現実」)を構成していると言えるかもしれません。

最後に、この視点で、Wはあいまいで、困難でも無関係でも、シンチレーション、深遠でクリスタルクリアで、私たちがそのように考え、振る舞うので、彼が格言的かつ電報で書き、彼を見逃すことは可能な限り最大の知的冒

陰の1つを逃すことを示唆しましょう。

合理性の論理的構造(高次思考の記述心理学)に関する合理的なスタートを切ったので、私がここ数年で構築したこの作品から生じる意図的性の表を見ることができます。これは、今度はヴィトゲンシュタインに多くを負っているサールからはるかに簡単なものに基づいています。私はまた、過去9行に証明されている思考プロセスの心理学で現在の研究者によって使用されている変更されたフォームテーブルに組み込まれています。ピーター・ハッカーの人間性に関する最近の3巻のものと比較することは興味深いはずですが、この表は、S1とS2の間の多くの(おそらくすべて)経路が双方向である多数の(おそらくすべて)経路を持つ、最終的な分析や完全な分析ではなく、私が見た他のどのフレームワークよりも完全で有用な動作を記述するためのヒューリスティックとして提供します。また、S1とS2の間の非常に区別、認知と意欲、知覚と記憶、感情、知ること、信じる、期待するなど、任意です-つまり、Wが示したように、すべての単語は文脈的に敏感であり、ほとんどがいくつかの全く異なる用途(意味またはCOS)を持っています。多くの複雑なチャートは科学者によって公開されていますが、私は行動について考えるとき(脳機能について考えるのではなく)最小限の有用性を見つけます。説明の各レベルは、特定のコンテキストで有用であるかもしれませんが、私は粗いまたは細かいことが有用性を制限していることがわかります。

合理性の論理的構造(LSR)、または心の論理的構造(LSM)、行動論理構造(LSB)、思考の論理的構造(LST)、意識の論理的構造(LSC)、人格の論理構造(LSP)、意識の記述心理学(DSC)、高次思考の記述心理学(DPHOT)、古典哲学用語。

システム1は不本意で、反射的または自動化された「ルール」R1であり、思考(認知)はギャップがなく、自発的または審議的な「ルール」R2であり、意欲(Volition)は3つのギャップを有する(サール参照)。

私は、サールの「満足の条件に満足の条件を押し付ける」を「筋肉を動かすことによって精神状態を世界に関連付ける」に変更することで、行動をより明確に記述できることを示唆しています。話し、書き込み、そして彼の「フィットの世界の方向への心」と「世界からフィットする方向を気にする」による「原因は心の中に由来する」と「原因は世界に由来する」S1は、S2がコンテンツを持ち、下向きに因果関係(世界への心)を持っている間、上向きの因果関係(世界から生じる)と満足のいかない(表現や情報を欠いている)だけです。 **行動をより明確に説明する** 私はこの表の用語を採用しました。

意思決定研究から

	好きになる傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション / 語
サブリミナル効果	ない	はい/ ない	はい	はい	ない	ない	ない	はい/ ない
連想 (A) ルールベース (RB)	RB	A/RB	A	A	A/RB	RB	RB	RB
状況依存 (CD) 抽象化 (A)	A	CD/A	CD	CD	CD/A	A	CD/A	CD/A
シリアル (S) 平行 (P)	S	S/P	P	P	S/P	S	S	S
ヒューリスティック (H) 分析 (A)	A	H/A	H	H	H/A	A	A	A
アクティブが必要 記憶	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
一般的なインテリジェンス 依存	はい	ない	ない	ない	はい/ ない	はい	はい	はい
認知的ローディング 抑制	はい	はい/ ない	ない	ない	はい	はい	はい	はい
覚醒は 促進 (F) または抑制 (I)	I	F/I	F	F	I	I	I	I

S2の満足度の公共条件は、多くの場合、Searleと他の人によってCOS、表現、真実作成者または意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人(または自分でCOS1)のプレゼンテーションとして指定されます。

*設定、機能、設定、表現、可能なアクションなど

** Searleの以前の意図

*** Searleの意図の実行

**** Searleのフィット方向

*****サールの因果関係

***** (精神状態がインスタンス化されます-それ自体を引き起こしたり実行したりします)。サールはこれを因果的に自己参照と呼んでいた。

***** Tversky / Kahneman / Frederick / Evans / Stanovichによって定義された認知システム。

*****異なる場所、異なる時間 (TT) 現在の時刻と場所 (HN)

私は他の著作でこのテーブルの詳細な説明を持っています。

特定の文脈で言語の可能な用途(意味、真実作成者、満足条件)を記述した後、私たちはその関心を使い果たし、説明(哲学)の試みは真実から遠ざかるというヴィトゲンシュタインの発見を常に念頭に置くべきです。このテーブルは、非常に単純化されたコンテキストフリーのヒューリスティックであり、単語の各使用は、そのコンテキストで調べる必要があることに注意することが重要です。文脈変動の最良の検討は、ピーターハッカーの人間の性質上の最近の3巻で、この1つと比較されるべき多数のテーブルとチャートを提供しています。

ウィトゲンシュタイン、サール、現代の2つのシステムビューからの行動の分析の包括的な最新の説明を望む人は、私の記事ウィトゲンシュタインとサールで明らかにされた哲学、心理学、心と言語の論理的構造を参照することができます。

今、サールのMSWに関するいくつかのコメントのために。私は私が見直した彼の最近の作品の別のものにいくつかの言及をします - 新世紀の哲学(PNC)。

ここでのアイデアはすでに出版されており、彼の仕事に追いついてきた人々には何も驚きではありません。Wと同様に、彼は彼の時代の最高のスタンドアップ哲学者とみなされ、彼の書かれた作品は岩と画期的な全体として固体です。しかし、後のWを真剣に受け止めなかったことは、いくつかの間違いや混乱につながります。彼の仕事の様々な場所(例えば、PNCのp7)では、基本的な事実に関する私たちの確実性は、私たちの主張を支持する理性の圧倒的な重みによるものと2回指摘していますが、Wは「確実に」で、システム1の認識、記憶、思考の真の唯一の公理構造を疑う可能性がないことを明確に示しました。PNCのp8の最初の文では、彼は確実性が改訂可能であることを教えてくださいますが、この種の「確実性」は、私たちが確実性と呼ぶかもしれませんが、公理的で改訂不可能な確実性(S1の確実性)を経験によって拡張した結果であり、提案(真または偽)として全く異なります。これはもちろん、Wが何度も何度も実証した「言語による私たちの知性の妖艶との戦い」の典型的な例です。1つの単語 - 2つ(または多くの)異なる使用。

PNCのp12では、「意識」は、いくつかの全く異なる感覚で「主観的」である自動システム1機能の結果として記述され、通常の場合、証拠の問題ではなく、私たち自身の場合には真の唯一の理解と他の人の場合の真の唯一の認識です。

私は、Wが多くの文脈で同義であると考えている心と言語のつながりをよりよく把握していると感じていますが、彼の作品は多くの言語使用の例に例示されているように、心と言語のつながりをより良く把握しています。上記のように、「今、それが私たちが懸念している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。因果関係や自由意志の概念(言語ゲーム)の改訂が必要または可能であることを否定することができます。あなたは理由のためにWのほぼすべてのページを読むことができます。量子力学や不確実性などの例を使って世界について奇妙なことを言うのは別のことですが、通常の意味の使い方に関連するものを言うのは別のことです。

デオンティック構造または「社会的な接着剤」は、S2の遅い性質を生み出すS1の自動高速アクションであり、個人的な開発中に他者との自動無意識の普遍的な文化的デオンティック関係の広い配列に容赦なく拡大される(S3)。これは私の行動のプレシスですが、私はそれがかなりSの仕事に記述すると思います。

私には決定的に見える心の機械的な見解に対するSのよく知られた議論と知り合いになりたい人は、彼のPNCのチャプス3-5に相談するかもしれません。私は彼らに対する回答の本全体を読んで、私は彼らがすべて彼が作る非常に単純な論理的な(心理的な)ポイントを逃すことをSに同意します(そして、大まかに、Wは半世紀早く作りました)。私の言葉では、S1は無意識、速い、物理的、因果関係、自動、非命題、真の唯一の精神状態で構成され、遅いS2は、多かれ少なかれ命題(TまたはF)になる行動(潜在的な行動)に対する意識の低下である行動の理由の点で一貫して記述することができます。コンピュータと自然の残りの部分は、私たちの視点に依存している唯一の意図を導き出し、高い動物は視点から独立した主要な意図的性を持っています。SとWが理解しているように、大きな皮肉は、心理学の唯物論的または機械的な削減が最先端の科学を装っているが、実際には完全に反科学的であるということです。哲学(記述心理学)と認知心理学(迷信から解放)が手袋に手を差し伸べ、寒さの中に取り残されているのはホフスタッター、デネット、カーツワイルなどです。

私にとって、心の機械的な見方がほぼすべての行動と同じ理由で存在することは明らかです - それは、私たちがほとんど忘れていない自動化されたS1(TPI)ではなく、意図的にゆっくりと考えることができるものの観点から説明を求めるEPのデフォルトの操作です。私は、彼のOCと他の第3期間における私たちの公理的継承心理学とその延長に関するWの記述は、S(または誰か)よりも深く働いているので、私たちは犬が意識していることを「自信を持っている」のではなく、疑いを開いていないと思います。

SNCの第5章は、心の計算理論、思考言語などをうまく取り壊し、「計算」、「情報」、「構文」、「アルゴリズム」、「プログラム」などで、観察者の相対的な用語(すなわち、心理的)用語であり、この心理的意味では物理的または数学的な意味を持たないが、もちろん、彼らが最近科学として与えられた他の感覚がある。繰り返しますが、人々は、その使用(意味)の大きな違いを無視することに同じ言葉を使用することによって妖艶です。もちろん、これはすべて古典的なヴィトゲンシュタインの延長です。

すべての思考者は、SNCのPNC「表現型錯覚」(TPI)の第6章を読むべきであり、彼の最高の論理的能力と後のWの完全な力を理解しなかったこと、そして2人の自分自身に関する最近の心理学研究の大きなヒューリスティックな価値を示しています。TPIがS1の自動化に気づかず、S2のゆっくりとした意識的思考を一次的なものではなく、すべてある

ものとして取り入れているのはクリスタルとして明らかです。これは古典的なブランクスレート失明です。また、Wが約60年前にこれを示し、また、私たちの初期のシステム1の真の唯一の無意識の自動公理ネットワークの優位性の中でその理由を与えたことも明らかです(もちろん、彼はこれらの用語を使用しませんでした)。

しかし、本当に重要なことは、TPIは単に少数の哲学者の失敗ではなく、それ自体がEPに組み込まれており、世界にとって巨大な(そして致命的な)意味を持つ私たちの進化心理学(EP)に対する普遍的な失明であるということです。私たちは皆、地球を破壊するという遺伝的にプログラムされた使命の中で、人生をつまづく肉の人形です。S1の幼児の喜びを楽しむために第二の自己S2の人格を使用することに対する私たちのほぼ完全な先入観は、地球上の地獄を作成しています。すべての生物と同様に、それは再生し、そこにリソースを蓄積することだけです。S1は劇を書き込み、S2はそれを実行します。ディックとジェーンはただ家をプレイしたい-これはママであり、これはパパであり、これとこれは赤ちゃんです。

おそらく、TPIは私たちが人間であり、別の霊長類の致命的な認知錯覚ではないということです。

(主に)S2を介して肉人形の弦を引っ張る(筋肉を収縮させる)遺伝子プログラムS1。物語の終わり。繰り返しますが、彼はWのOCに関する私のコメントを読む必要があるので、p171の下部にある「信じる正当な理由」とp172の上部を「知っている」(真の唯一の意味で)に変更します。、何年も前にS1によって導入された批判的な概念は、Wが行動する傾向や処分と呼んだ私たちの考え(S2の命題)に対する満足の条件(COS)です。COSは、PNCのp169のような多くの場所でS1によって説明されています:「したがって、何かを言うと、それは満足の2つの条件を伴うことを意味します。第一に、発話が生み出され、第二に、発話自体が満足の条件を持つことを満足の条件。SがPNCで述べているように、「命題は満足の条件を決定できるものです。満足の条件それはそうであるということです。または、MSWで明らかにしているように、それがそうであったり、想像されたりするかもしれない、または想像されるかもしれない、または追加する必要があります。意図については、「満足するためには、意図自体がアクションの生産において因果関係を持って機能しなければならない」。(MSWp34)。

これに関する1つの方法は、無意識の自動システム1がシステム2のより高い皮質意識的性格を活性化し、潜在的な行動にコミットする特定の方法で世界を見ていることを他の人に知らせる喉の筋肉収縮をもたらすことです。総筋の動きだけが意図に関する非常に限られた情報を伝えることができた前言語学的または原語的相互作用に対する大きな進歩。

ほとんどの人は、S1を記述する真のみの文章とS2を記述する真のまたは偽の命題の違いを明確にするので、Wの「確実性」または「RPP1と2」またはDMSのOCに関する2冊の本(私のレビューを参照)を読むことから大きな恩恵を受けるでしょう。これは、S2で彼らについて考え始めた後、TまたはF(Sがここでそれら呼び出すように縦横)にしかならないので、S1の認識を提案的なものとして受け取ることに対するはるかに優れたアプローチとして私を襲います。しかし、PNCの彼の主張は、提案は、過去と未来とファンタジーの実際または潜在的な真実と虚偽の記述を許可し、したがって、前または原語社会に対する大きな進歩を提供し、誠実です。

Sは、多くの場合、1つのイベントの説明の様々なレベルに注意する重要な必要性を記述するので、IAAのために「私たちは、1つのレベルが低いレベルでの行動によって構成される記述の異なるレベルを持っています。関係によって構成に加えて、我々はまた、関係によって因果関係を持っています。(p37)。

「事前の意図と行動の意図を区別する必要があるという重要な証拠は、2つのケースにおける満足の条件が著しく異なっているということです。(p35)。PIのCOSは全体のアクションを必要としますが、IAAのCOSは部分的なアクションのみ必要です。彼は、以前の意図(PI)が精神状態(すなわち、無意識のS1)であり、意識的な行為(すなわち、S2)であるが、両方とも因果関係的に自己参照(CSR)である意図イントコール(IAA)をもたらすことを明らかにしている(例えば、p34)。両方がCSRであるという重要な議論は、(信念や欲望とは異なり)彼らが彼らのCOSをもたらすことに不可欠であるということです。これらの認知と意志の記述は、サールが長年使用してきた表2.1に要約されており、私が作成した拡張物の基礎です。私の見解では、私のS1、S2、S3用語とWの真のみの対提案(性質)の記述を使用して、これを現代の心理学研究に関連付けるのに非常に役立ちます。したがって、CSRはS1の真のみの認識、記憶、意図を参照し、S2は信念や欲望などの性質を指します。

したがって、S1を認識することは上向きの因果関係と満足のいく(表現や情報が欠けている)一方で、S2はコンテンツを持ち、下向きに因果関係があります(例えば、ハットとミンの「過激なエナビズム」を参照)、p39から段落を変更します。

要するに、知覚、記憶、反射的な意図と行動('意志')は、S1真のみの公理的EPの自動機能によって引き起こされます。事前の意図や意図を通じて、私たちは物事がどうなるかと思うかと、彼らがどう思うかと一致するようにしています。私たちは、信念、欲望(そして想像力-時間がシフトし、意図から切り離された)と私たちの遅い思考の他のS2提案的な性質は、後に進化した第二の自己、CSRの急速な自動原始的な真の唯一の反射的なS1に完全に依存している(彼らのCOSを持っている)ことを見るべきです。言語およびおそらく神経生理学では、COS(すなわちS1を使用した)との因果関係が過去または未来を表す際に、常に現在にあるS1とは異なり、時間シフトされる、意図(事前の意図)または記憶などの中間またはブレンドされたケースがあります。2つのシステムはお互いに供給し、多くの場合、S3の学習された脱イオン文化的関係によってシームレスに調整されているので、私たちの通常の経験は、私たちが行うすべてを意識的に制御することです。私たちの人生を支配する認知錯覚のこの広大なアーリーナSは、「表現型錯覚」と表現しています。

彼は、彼の著作の中で10回目を繰り返すことによって、この驚くべき章を終え、私は彼がほぼすべての人と共有する非常に基本的な間違いとみなしています - 「自由意志」の経験は「幻想的」かもしれないという考え。これは、Wの第3時代の作品と現代心理学の観察の両方から、非常に簡単に容赦ない方法で、「意志」、'自己'、意識は、システム1の公理的な真の要素であり、彼らの虚偽を示す可能性(伝言不能)はありません。Wは何度も素晴らしく明確にしたので、彼らは判断の基礎であり、判断することはできません。Sは基本的に他の文脈(例えば、懐疑的、孤独主義)で同じ議論を理解し、使用するので、彼がこのたとえを見るができないのは非常に驚くべきことです。彼は、私たちの犬が意識しているという「良い証拠」を持っていることを言うとき、彼はしばしばこの間違いを犯します。私たちの心理学の真の唯一の公理は明らかではありません。ここでは、W以来最高の記述心理学者を持っているので、これは愚かな間違いではありません。

p50に関する彼のデオンティクスの要約は翻訳が必要です。したがって、「言語的形態が構築される集団的意図的性の先行的な形態を持たなければなり、コミットメントを行うために会話の集団的意図的性を持たなければなりません」と補完すれば、「S1の言語学的公理的性質は、S3の成熟の間に進化するS2(すなわち、私たちのEP)の言語的性質の根源である」と補完すれば、はるかに明確になります。

ステータス関数宣言はデオンティックの中心的な役割を果たすため、それらを理解することが重要であるため、ここで関連する「関数」の概念を説明します。「関数は目的を果たす原因です。この意味で、関数は意図的に相対的であり、したがって心に依存しています。ステータス機能。必要。。。集団的な賦課と地位の認識」(p59)。

繰り返しますが、「言語の意図的性は人間の本質的な、または心に依存しない意図的性によって作られる」(p66)の翻訳を「S2の言語的、意識的な性質はS1の無意識の公理的反射関数によって生成される」(p68)という訳を提案する。つまり、行動は生物学によってプログラムされていることを心に留めておく必要があります。

しかし、私は、S1(記憶、知覚、反射行為)が命題(すなわち真偽)構造を有するという彼の著作のp66-67および他の場所での彼の声明に強く反対する。私が上記で述べたように、他のレビューでは何度も、Wが正しいことは明らかですし、S2だけが命題であり、S1は公理的で真のみの行動を理解することが基本的です。S1の遺伝的、公理的な意図的性がS2のそれを生成するので、彼らは両方ともCOSとフィットの方向(DOF)を持っていますが、S1が同じ意味で提案的であったならば、それは懐疑的なことが分かりやすいことを意味し、Wが戻る前の哲学であった混乱は不可能であり、実際には人生は不可能です(これは冗談ではありません)。Wが数え切れないほどの時間を示し、生物学がはっきりと示すように、生命は確実性(無意識の迅速な反応を自動化)に基づいている必要があります。常に疑いを持ち、反映するために一時停止する生物は死ぬでしょう。

彼のコメント(p70)とは対照的に、私は世界をオブジェクトに分割し、それらを記述する言語のビジョンの最初かつ最も基本的なタスクであるため、私はそれらを見るができない視覚システムを想像できる以上に、材料オブジェクトの単語を欠いている言語を想像することはできません。同様に、意識的な分野でオブジェクトが顕著であることや、文章が単語に分かれていることにしても問題は見られません。進化の歴史を持つ存在のために、どうしてそうできないのでしょうか？

p72 や他の場所では、表現が S2 の性質 SLG である間、表現は S1 のプリミティブ反射 PLG であることを覚えておくのに役立ちます。

「ここまで」始まり、「前に聞いた」終わりのp79の第2段落には、哲学から英語への別の翻訳が必要です。「文章

の中の言葉で構成された公用語を構文で話すことで意味を伝えます」

言語と書き込みの特別な性質に関するp105の彼の質問4と5に、私は答えるだろう:「声の筋肉の振動の短波長は、他の筋肉の収縮よりもはるかに高い帯域幅情報転送を可能にし、これは視覚情報のために平均数桁高い。

p106では、質問2に対する一般的な答え(なぜそれを逃れるか、つまりなぜそれがうまくいくのか)はEPとS1であり、「この本の博覧会の私の主な戦略は、おなじみの奇妙で印象的に見えるようにすることです」という彼の声明はもちろん古典的なヴィトゲンシュタインです。人々が機関を受け入れる理由に対する一般的な答えが存在しないという次のページの彼の主張は明らかに間違っています。彼らはすべてを行うのと同じ理由で彼らを受け入れます- 彼らのEPは包括的なフィットネスの結果です。EEA(進化適応の環境)における生存と再生を促進した。私たちについては、遺伝学で物理的および精神的に底を打っています。ここでの曖昧な話(例えば、p114)の「言語外規約」と「余分な意味論の意味」は、実際にはEP、特にすべての行動の基礎であるS1の無意識の自動化を指しています。はい、Wが何度も言ったように、最も身近なのは、その理由が目に見えないことです。

ゲームに言語が不可欠であるというSの提案(p115)は間違っている。完全に読み書きできない聴覚障害者のミュートは、カード、サッカー、さらにはチェスをすることができますが、もちろん最小限のカウント能力が必要になります。私は(p121)ふりをして想像する能力(例えば、時間と空間のシフトに関与する反事実またはas-as-if-ifという概念)は、完全な形で、一意に人間の能力であり、より高い秩序の思考に不可欠であることに同意します。しかし、ここでも多くの動物の前駆体があります(必要がありますように) 儀式的戦闘や交配ダンスの姿勢、バウアー鳥による交配サイトの装飾、母鳥の壊れた翼の見せかけ、サル of の偽のアラームコール、獲物から一口を取る「クリーナー」魚とタカと鳩の戦略のシミュレーション(詐欺師)多くの動物で。

合理性の彼の議論(p126 et seq)のために、より多くの翻訳が必要です。思考は命題であり、真または偽の「事実実体」を扱うとは、S1の真のみの自動認知機能とは対照的に、それがテストできる典型的なS2処分であることを意味する。

「自由意志、合理性、制度的事実」では、彼は彼の古典的な本「行動の合理性」の一部を更新し、私がフェリシタスを見つけることができない実用的な理由の正式な装置を記述するためのいくつかの新しい用語を作成します。「事実実体」は、性質や「動機」(欲望または義務)、「エフェクター」(身体筋肉)、構成者」(スピーチ筋肉)、および「すべての関連する性質」(すべての関連する性質)と変わらないようです。

私たちはここで人間の行動の議論ではめったに起こらない何かをし、その生物学を思い出させるべきです。インクルーシブフィットネスによる進化は、S2の意識的なゆっくりとした思考(しばしばS3の文化的拡張によって変更される)を生み出すS1の無意識の急速な反射的因果作用をプログラムし、しばしばS1によって身体および/または音声筋肉の活性化をもたらす行動の理由を生み出す。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域における様々な神経調節剤の変化の両方を介してである。これは同様に不可解に見えるかもしれませんが、それは事実に基づいているという美德を持っており、私たちのより高い順序の思考の複雑さを考えると、私は一般的な説明がはるかに簡単になるとは思わない。全体的な認知錯覚(S'S'「フェノメノロジカル錯覚」によって呼ばれる)は、S2 / S3が私たちが十分に認識し、制御している理由で意識的に行動を生成したということですが、現代の生物学と心理学に精通している人は、この見解は信用できません。

したがって、p127の実用的な理由の要約を次のように翻訳します:「私たちは、通常、欲望-独立した行動理由(DIRA、時と時間に置き換えられる欲望、最も頻繁に相互利他主義のために)を含む私たちの欲望(脳化学を変更する必要がある)に屈します。

p128に関するSのコメントとは対照的に、DIRAは高等動物では普遍的であり、S1の自動言語学的反射神経(すなわちDIRA1)を含むならば、人間に特有のものではないと思いますが、確かに言語を必要とするS2/3またはDIRA2のより高い順序DIRAは人間的です。これは、私たちがDIRA2 / 3(すなわち、S2の欲望とその文化的なS3拡張)を自発的に実行する方法のパラドックスのp129の下部にある彼の「説明」(Wが示唆したように)の代替的で明確な記述のように思えます。つまり、「パラドックスの解決は、欲望に依存しない理由の認識は、欲望を根付かせる可能性があり、したがって、彼らが行うことは論理的に避けられず、経験的に普遍的ではないにもかかわらず、欲望を引き起こす可能性があるということです」と、「パラドックスの解決は、長期的な包括的なフィットネスを提供する無意識のDIRA1が意識的なDIRA2を生成するということです。同様に、p130-31に関するこの問題についての彼の議論のために-S2/3の性質とそれに続く行動を根拠にしたEP、RA、IF、S1です。

p140では、生物学から脱イオン薬を得ることができない理由を尋ねますが、もちろん、他の選択肢はなく、上記の説明はこれがどのように起こるかを示しているの、生物学からそれらを得る必要があります。彼の声明とは対照的に、最も強い傾向は常に勝ちますが(定義上、それ以外の場合は最強ではありません)、RAとIFの先天的なプログラミングが即時の個人的な短期的な欲求を上書きするので、デオンティクスは機能します。S1とS2の自然と育成の彼の混乱は、p143の結論2と3にまで及びます。エージェントは確かにDIRA2 / 3の近位の理由を作成しますが、これらは単なるものではありませんが、例外が少ない場合はDIRA1の非常に制限された拡張(最終的な原因)です。彼が本当に私たちの意識的な決定だけにデオンティックを帰属させる意味があるならば、彼はその名前の彼の古典的な論文でとても美しく取り壊された「フェノメノロジカル幻想」(TPI)の餌食です(PNCの私のレビューを参照)。私が上記のように、私たちの性格を構成する認知錯覚を暴露する最近の研究の巨大な体があります。TPIは単なる無害な哲学的誤りではなく、私たちの生命と社会と世界を支配し、その結果が今後150年間に文明の崩壊という錯覚を生み出す私たちの生物学に対する普遍的な忘却です。

彼は、人間の合理性は「ギャップ」(実際には彼が何度も議論してきた3つのギャップ)なしでは意味をなさないことを正しく指摘しています。つまり、自由意志(すなわち、選択)がなければ、それはすべて無意味であり、進化が不必要な遺伝的かつエネルギーに高価なシャレードを作成し、維持することは考えられないと正しく指摘している。しかし、他のほとんどすべての人と同じように、彼は自分の道を見ることができないので、再び彼は(p133)その選択が幻想かもしれないことを示唆しています。それどころか、Wに続いて、選択が私たちの公理的なS1真の唯一の反射的な行動の一部であり、S1が質問の基礎であるため、矛盾なしに疑問を持つことはできないことは明らかです。あなたがそれを意識することは疑いの根拠であるため、このページを読んでいる疑いは間違いありません。

Wに関する彼の素晴らしい本の中で、Wが脳の混沌としたプロセスに由来する可能性を示唆することによって、これに興味深い解決策を提起したこと(Wに関する彼の素晴らしい本の中のBuddは1つの例外です)、例えば、記憶痕跡に対応するものは何も存在しない。彼はまた、因果鎖に終わりがあり、これは(科学の状態に関係なく)それ以上それを追跡することは不可能であり、「原因」の概念が特定のポイントを超えて適用されなくなることを意味する可能性があることを何度か示唆した。その後、多くの人が物理学と複雑さと混乱の科学に基づいて同様の提案をしました。

p155では、バックグラウンド/ネットワークは私たちのEPであり、S1、S2、S3の文化的拡張であることに注意してください。

上記を考えると、私は彼の権力と政治の議論についてコメントする必要はないと感じていますが、私は人権についていくつかの言葉を言います。私は、国連人権宣言は無責任な文書であるというp185に関する彼のコメントに完全に同意します。急速で、おそらく容赦ない社会の崩壊は、人々があまりにも多くの権利とあまりにも少ない責任を持っているためです。世界に対する唯一の小さな希望の光は、何とか人々が地球を第一に、自分自身を第二に置くことを余儀なくされる(自発的にそれを行う人はほとんどいない)ということです。資源を消費し、子供を生産することは特権として規制されなければならないか、コモングの悲劇はすぐにゲームを終了します。

全体として、MSWはSの半世紀の仕事に起因するヴィトゲンシュタインに対する多くの実質的な進歩の良い要約ですが、私の見解では、Wは彼が言っていることを理解すると、基本的な心理学のためにまだ不平等です(私のレビューを参照)。理想的には、彼らと一緒に読む必要があります:S2 / S3の動作に関する明確で一貫した散文と一般化のためのサークルは、S1 / S2の動作のWの厄介な例と彼の華麗な格言で示されています。もし私がずっと若かったら、まさにそれをやっている本を書くだろう。